

シ ア フ オ S E A F O（南東大西洋漁業機関）年次会合の結果について

1 S E A F O（南東大西洋漁業機関）

南東大西洋における漁業資源の資源管理を行う国際機関。

メンバーは日本、アンゴラ、EU、韓国、ナミビア、南アフリカ。

2 日時・場所

11月29日（水）から11月30日（木）まで、ウェブ会議形式にて開催。

3 我が国出席者

野村農林水産省顧問（委員会会合議長）、水産庁、水産教育・研究機構及び業界の関係者が出席。

4 結果

- （1） 昨年[※]の合意（※）に基づき、現在の総漁獲可能量（TAC）（令和4年（2022年）から令和5年（2023年）まで）を令和6年（2024年）まで維持することが合意された。日本船が漁獲するメロ及びオオエンコウガニ（マルズワイガニ）の現在のTACは、それぞれ261トン及び362トン。

※本年の科学委員会において、見直すべき根拠等が確認されない限り、現在のTACを令和6年（2024年）まで維持する。

- （2） 来年の年次会合は、スワコムプンド（ナミビア）で開催される予定。